

令和5年度 中部教育事務所 学校教育の重点

<岩手県教育振興計画基本目標及び岩手の義務教育が目指すもの>

学びと絆で 夢と未来を拓き 社会を創造する人づくり
「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた、社会を創造する能力を育てる「人間形成」

<目指す姿(学校教育)>

子どもたちが、地域とともにある学校において自ら生き生きと学び、夢を持ち、それぞれの人間形成と自己実現に向けて知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を身に付けています。

<学校の取組>

生命を尊重し、安全安心な学校が基盤

- ◇児童生徒一人ひとりへの確かな学力の育成
- ◇児童生徒一人ひとりと適切に、組織的に関わる学校づくり
- ◇組織的・計画的なPDCAサイクルの推進
- ◇校内における人材育成の推進

管内各市町教育委員会と連携し、学校に寄り添った支援を展開します

<中部教育事務所の方針と7つの重点>

児童生徒一人ひとりが夢を持ち、生きる力を身に付ける学校教育の推進

1 岩手で、世界で活躍する人材の育成

(1) 目指す姿

- ア 郷土を愛し、本県の復興及び産業や地域の発展を支える「人材育成」(ひとづくり)の支援に取り組み、その人材が育っている。
- イ 社会人・職業人としての自立を図る教育の支援と教員研修の充実に取り組み、その人材が育っている。
- ウ 国際的な視野を広げる人材が育っている。

(2) 指標 (いわて県民計画(2019~2028)第2期アクションプラン) ※斜体はR4年度目標を下回った箇所

| 18 地域に貢献する人材の育成 | ◆いわて幸福関連指標 ○具体的推進方策の目標 | R5 県 目標 | R5 中部 目標 | R4 中部 状況 |
|---|---------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| ◆将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 ※「将来の夢や目標を持っていますか。」に肯定回答する児童生徒の割合 (全国学調児童生徒質問紙調査) | | 小 83.0 中 73.8 | 小 84.0 中 75.0 | 小 83.8 中 74.9 |
| ○自分の住む地域が好きだと思っている児童生徒の割合 ※「自分の住む地域には、よいところがあると思いますか。」に積極肯定する児童生徒の割合 (県学調の児童生徒質問紙調査) | | 小 72 中 55 | 小 73 中 57 | 小 72 中 56 |
| ○中学校3年生において求められている英語力を有している生徒の割合 ※CEFRのA1レベル相当以上(英検3級以上の取得及び英検3級以上の英語力を有すると思われる)生徒数の割合(英語教育実施状況調査) | | 中 45.0 | 中 49.0 | 中 48.3 |

(3) 具体的な取組

- ア 改訂した副読本及び絵本の活用について具体を示すとともに、各校の学校経営計画に復興教育を位置付け、「復興・発展を支える人材」を育成する取組を支援する。

イ 充実した復興教育を目指し、全体計画と副読本の効果的な活用の仕方についての交流や、これからの復興教育を考えていく視点からの演習等を盛り込んだ研修を行う。

ウ 「いわてキャリア教育指針（改訂版）」に基づき、「総合生活力」と「人生設計力」を育成する。

エ 関係団体や企業等と協働による研修の充実を図る。

オ 各学校において作成している「キャリア教育全体計画」をもとに、地域と連携した取組や発達段階に応じた取組を支援する。

カ 小学校外国語との円滑な接続と、高校の授業へのつながりを意識しながら、英語による言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成し、学習到達目標（CAN-DO）の達成に向けて単元や授業を構成することができるよう支援する。

(4) 関連事業

- ・復興教育研修会
- ・実践的キャリア教育研修会
- ・小中をつなぐ外国語教育推進研修会
- ・小学校外国語専科教員研修会
- ・指導主事による校内授業研究会等への対応
- ・授業づくり・学級づくり講座

外国語活動・外国語(小学校)については全体研にも対応します。

2 確かな学力の育成と教員研修の充実

(1) 目指す姿

児童生徒が、資質・能力の3つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を身に付けている。

(2) 指標（いわて県民計画（2019～2028）第2期アクションプラン）※斜体はR4年度目標を下回った個所

| 11【知育】児童生徒の確かな学力の育成 | ◆いわて幸福関連指標 ○具体的推進方策の目標 ☆中部教育事務所の独自目標 | R5 県 目標 | R5 中部 目標 | R4 中部 状況 |
|--|--|------------------------|------------------------|--------------------------------------|
| ◆意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合 ※「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」に肯定回答する児童生徒の割合（全国学調児童生徒質問紙調査） | | 小 82.5 中 85.4 | 小 83.0 中 85.4 | 小 <i>82.5</i> 中 <i>84.7</i> |
| ◆授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合 ※「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」に肯定回答する児童生徒の割合（全国学調児童生徒質問紙調査） | | 小 83.0 中 83.5 | 小 84.0 中 86.0 | 小 <i>83.3</i> 中 85.3 |
| ○教育課程全体で「話すこと」「書くこと」等の言語活動の充実を図っている学校の割合 ※「教育課程全体で「話すこと」、「書くこと」等の言語活動の指導の充実及び徹底を図っていますか」に積極肯定回答する学校の割合（県学調学校質問紙調査） | | 小 50 中 42 | 小 56 中 42 | 小 55.3 中 24.0 |
| ○児童生徒の資質・能力の向上に向けて、「確かな学力育成プラン」に基づいて組織的に取り組んでいる学校の割合 ※「学校では、児童生徒の資質・能力の育成に向けて、確かな学力育成プランに基づいて組織的に取り組んでいますか」に積極肯定回答する学校の割合（県学調学校質問紙調査） | | 小 64 中 53 | 小 71 中 53 | 小 70.2 中 44.0 |
| ○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をもとに幼児児童の姿を共有し、授業に生かしている小学校の割合 ※「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』をもとに幼児児童の姿について共有し、小学校の授業に生かしていますか」に肯定回答する学校の割合（県学調学校質問紙調査） | | 小 75 | 小 86 | 小 85.1 |
| ○授業等でICT機器を活用し、児童生徒にICT活用について指導できる教員の割合 ※教員のICT活用指導力に関する16の設問について、各問に肯定回答した教員（全校種）の割合の平均値（学校における教育の情報化の実態等に関する調査） | | 80 | 80 | 70.8 (※R3) |
| ○諸調査結果や日々の授業から明らかになった児童生徒のつまずきに着目した授業改善を行っている学校の割合 ※「調査結果や日々の授業から明らかになった、児童生徒のつまずきに着目した授業改善を行っていますか」に積極肯定回答した学校の割合（県学調学校質問紙調査） | | 小 52 中 42 | 小 54 中 42 | 小 53.2 中 28.0 |

| | | | |
|---|--------------------|--------------------|--------------------|
| ○学校の宿題だけでなく、自主学習に取り組んでいる児童生徒の割合 ※「学校の宿題だけでなく、自主学習に取り組んでいますか（自主学習→自分で学習内容を決めて取り組むこと）」に肯定回答する児童生徒の割合（県学調児童生徒質問紙調査） | 小 63 中 57 | 小 63 中 68 | 小 61 中 67 |
| ☆学びを振り返り、実感している児童生徒の割合 ※「授業の中の振り返る活動で、その時間の学習内容で何が大切だったかが分かったと感じていますか。」に積極肯定する児童生徒の割合（県学調児童生徒質問紙調査） | — | 小 47 中 38 | 小 46 中 36 |

(3) 具体的な取組

ア 学習指導要領の趣旨を踏まえ、「児童生徒の育てほしい具体の姿とつけたい力・育てたい力」を明確にし、「いわての授業づくり3つの視点」を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善及び授業力の向上、各種調査結果を活用して学力向上を目指す組織的なCAPDサイクルの取組を支援し、**児童生徒一人ひとりが「わかる」「できる」を実感できる、子どもが主役の授業づくり**を推進する。

イ 授業における ICT の効果的な活用、校内研究の活性化、教員相互の授業参観など、学校内における人材育成を推進し、組織的・計画的に教職員の実践的な指導力を高めるよう支援する。

ウ 学級経営の視点を含めた教員の授業力や専門性を高めるため、各教科や領域、特別支援教育、複式指導などニーズに応じた研修の充実を図る。

エ 学校公開や学校訪問等を通じて、教職員の人材育成の推進と成果の普及を図る。

(4) 関連事業

- ・ 地区別小中学校教育課程協議会
- ・ 授業力ブラッシュアップ事業
- ・ 臨時的任用教員研修会
- ・ 授業づくり・学級づくり講座
- ・ 指導主事による校内授業研究会や学校公開等への対応
- ・ 基本研修（初、2年、5年、中堅教諭等）
- ・ 小学校低学年教育研修会
- ・ 授業力向上アドバイザー事業
- ・ 検証改善サイクルモデル校事業

講師、採用2・3年目の教諭を手厚くフォローします。

3 豊かな心の育成

(1) 目指す姿

ア 良好な人間関係を構築できる協調性や自他の生命を大切にし、他者の人権を尊重するなどの基本的な道徳性や規範意識が身に付いている。

イ 多様な体験活動や読書指導などの充実により、達成感や成功体験につながる取組と読書活動を推進することで、自己肯定感を高めるとともに豊かな情操が育っている。

ウ 生涯を通じて伝統文化や芸術に親しむことができる豊かな素養が身に付いている。

(2) 指標（いわて県民計画（2019～2028）第2期アクションプラン）※斜体はR4年度目標を下回った個所

| 12【徳育】児童生徒の豊かな人間性と社会性の育成 | ◆いわて幸福関連指標 ○具体的推進方策の目標 | R5 県 目標 | R5 中部 目標 | R4 中部 状況 |
|--|---------------------------|------------------|------------------|------------------|
| ◆人が困っているときは、進んで助けようと思う児童生徒の割合 ※「人が困っているときは、進んで助けようと思いますか」に積極肯定回答する児童生徒の割合（県学調児童生徒質問紙調査） | | 小 70 中 68 | 小 70 中 72 | 小 67 中 71 |
| ◆自己肯定感をもつ児童生徒の割合 ※「自分にはよいところがあると思う」に肯定回答する児童生徒の割合（全国学調児童生徒質問紙調査） | | 小 78.0 中 78.5 | 小 78.0 中 79.0 | 小 77.7 中 78.8 |
| ○多様な意見を認め合うことに価値を感じている児童生徒の割合 ※「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に肯定回答する児童生徒の割合（県学調児童生徒質問紙調査） | | 小 77 中 81 | 小 77 中 81 | 小 — 中 — |
| ○学校や地域が行う体験活動に参加し、達成感や有用感をもった児童生徒の割合 ※「学校や地域が行う体験活動では、達成した喜びややりがいなどを感じることができましたか」に肯定回答する児童生徒の割合（県学調児童生徒質問紙調査） | | 小 85 中 85 | 小 85 中 85 | 小 — 中 — |

| | | | |
|---|--------------------|--------------------|------------------------|
| ○「読書が楽しい」と感じる児童生徒の割合 ※「あなたは、読書をするのを楽しんでいると思いますか」に肯定回答する児童生徒の割合（子どもの読書活動状況調査） | 小 90 中 85 | 小 90 中 85 | 小 86 中 81 |
| ○様々な文化芸術に触れ、文化芸術に興味をわいたと感じている児童生徒の割合 ※「学校で行う鑑賞教室や文化芸術に関する学習、地域に伝わる伝統活動などを通じて、文化芸術への興味をわきましたか。」に肯定回答する児童生徒の割合（県学調児童生徒質問紙調査） | 小 72 中 69 | 小 74 中 69 | 小 73 中 67 |
| ○話し合いの場で、互いの良さを生かしながら解決方法を決めている児童生徒の割合 ※「児童会活動（生徒会活動）や学級活動などで、学究生活をよりよくするために話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めていますか」に肯定回答する児童生徒の割合（県学調児童生徒質問紙調査） | 小 84 中 84 | 小 85 中 91 | 小 84.4 中 90.0 |

(3) 具体的な取組

- ア 道徳の全体計画の見直し等、推進体制の確立と道徳科の質の高い指導への改善に向けた教員研修により、道徳教育の充実のための支援を行う。
- イ 特別活動を中心として、児童生徒一人ひとりを大切にした学級経営等の充実と、子どもが安心して学ぶことができる学習環境の整備のための支援を行う。
- ウ 集団宿泊活動等や社会教育との連携による学校、地域での体験活動及び読書ボランティア等による読み聞かせ等を推奨する。
- エ 芸術鑑賞教室等による文化芸術教育、伝統活動を推奨する。

(4) 関連事業

- ・ 基本研修（初、2年、5年研等）
- ・ 読書ボランティア研修会
- ・ 中高図書館担当者研修会
- ・ 臨時的任用教員研修会
- ・ 児童生徒の心を耕す教育推進事業
- ・ 指導主事による校内授業研究会等への対応
- ・ 授業づくり・学級づくり講座

特別活動については全体研にも対応します。

4 健やかな体の育成と体力向上及び健康教育の充実

(1) 目指す姿

- ア 自らの体力や健康に関心をもち、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付けている。
- イ 適切に部活動に取り組んでいる。
- ウ 心身の健康の保持増進と生涯にわたる健康な生活に必要な力を身に付けている。

(2) 指標（いわて県民計画（2019～2028）第2期アクションプラン）※斜体はR4年度目標を下回った個所

| 13【体育】児童生徒の健やかなからだの育成 | ◆いわて幸福関連指標 ○具体的推進方策の目標 ☆中部教育事務所の独自目標 | R5 県 目標 | R5 中部 目標 | R4 中部 状況 |
|--|--|---------------|----------------|----------------|
| ◆体力・運動能力調査の総合評定（5段階：A～E）のA・B・C段階の児童生徒の割合 ※全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5、中2） | 小男 | 70.0 | 70.0 | 68.9 |
| | 小女 | 80.0 | 80.0 | 75.5 |
| | 中男 | 75.0 | 75.0 | 72.1 |
| | 中女 | 90.0 | 90.0 | 88.4 |
| | 小 | 89.0 | 92.0 | 90.6 |
| | 中 | 89.0 | 89.0 | 83.9 |
| ○運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合 ※「運動やスポーツをするのは、好きですか。」に肯定回答する児童生徒の割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5、中2）） | | | | |

| | | | |
|--|------------------|------------------|------------------|
| ○朝食を毎日食べる児童生徒の割合 ※朝食を毎日食べると回答する児童生徒／公立小・中学校の児童生徒数 (健康国保課調べ「生活習慣病予防支援システム生活習慣アンケート」 (小1.4、中1.3対象)) | 小 97.0 中 90.0 | 小 98.0 中 92.0 | 小 97.2 中 90.9 |
| ○毎日一定の時刻に就寝する児童生徒の割合 ※毎日一定の時刻に就寝すると肯定回答する公立小・中学校の児童生徒数／公立小・中学校の児童生徒数(全国学調児童生徒質問紙調査) | 小 85.0 中 85.0 | 小 85.0 中 85.0 | 小 84.6 中 83.9 |
| ○喫煙飲酒の指導を含めた「薬物乱用防止教室」を開催している小学校の割合(保健体育行政関係調査) | 小 100 | 小 100 | 小 100 |
| ○部活動の活動方針について、学校、保護者、外部指導者等が、共有理解を図る部活動連絡会等の機会を持っている学校の割合 ※共通理解を図る機会を設定している公立中学校数／全公立中学校数 (保健体育行政関係調査) | 中 89.0 | 中 100 | 中 96.0 |

(3) 具体的な取組

- ア 「60 プラスプロジェクト」の推進、1日60分以上の運動(遊び) + 「食習慣」「生活習慣」の形成に向けた取組を一体的に推進する。
- イ 豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実を図るため、運動やスポーツの多様な楽しみ方や価値の共有及び適切な部活動の充実を推進する。
- ウ 健康教育の充実のため、現代的な健康課題への対応、望ましい食習慣の取組を推進する。「60 プラスプロジェクト」の取組と関連付けながら、結果として児童生徒の肥満予防・改善となるよう取り組んでいく。

(4) 関連事業

- ・ 地区別体力向上担当者研修会(小)
- ・ 健やかな体の育成支援事業
- ・ 中学校部活動連絡会等支援事業
- ・ 地区別体育授業改善研修会(中)
- ・ 「60 プラスプロジェクト」推進事業
- ・ 養護教諭基本研修(初、2年、3年)

5 特別支援教育の充実

(1) 目指す姿

児童生徒が「共に学び共に育つ教育」の理念のもと成長している。

(2) 指標(いわて県民計画(2019~2028)第2期アクションプラン) ※斜体はR4年度目標を下回った個所

| 14 共に学び、共に育つ特別支援教育の推進 | ○具体的推進方策の目標 ☆中部教育事務所の独自目標 | R5 県 目標 | R5 中部 目標 | R4 中部 状況 |
|---|------------------------------|---------------|----------------------|----------------------|
| ○「引継ぎシート」を活用し、進学時に円滑な引継ぎを行っている学校の割合 ※特別な支援を必要とする児童生徒が在籍している学校のうち、引継ぎシート等 を活用して引継ぎを行った学校数／特別な支援を必要とする児童生徒の在籍 校数(いわて特別支援教育推進プラン進捗状況調査) | | 100 | 100 | 100 |
| ○特別支援学校の授業研究会・研修会に参加した教員数 ※各特別支援学校の授業研究会に参加した公立学校の教員数(中部状況について は、特別支援教育担当ステップアップ研修講座Ⅱに参加した人数) | | 655 | 小 13 中 6 | 小 9 中 11 |
| ☆特別な支援を要する対象児童生徒(在籍、通級いずれも)について「個別の教育 支援計画」を全員分作成している学校の割合 ※文科省特別支援教育体制整備状況調査 | | — | 小 100 中 100 | 小 100 中 100 |

(3) 具体的な取組

- ア 特別な支援を必要とする児童生徒への指導方法に関する相談や支援を行うとともに、特別支援教育エリアコーディネーターの派遣等により校内での研修の充実を図る。
- イ 「引継ぎシート」、「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」の活用を推進する。
- ウ 特別の教育課程の適切な編成と確実な実施について支援する。

(4) 関連事業

- ・特別支援教育担当ステップアップ研修講座
- ・特別支援教育エリアコーディネーター訪問支援
- ・特別支援コーディネーター連絡会

・授業づくり・学級づくり講座

特別支援教育については全体研にも対応します。

6 いじめ問題・不登校対策等への対応

(1) 目指す姿

ア いじめや不登校などの生徒指導上の課題に対する未然防止、早期発見・適切な対応により、健全な児童生徒が育っている。

(2) 指標 (いわて県民計画(2019～2028)第2期アクションプラン) ※斜体はR4年度目標値を下回った個所

| 15 いじめ問題等に適切に対応し、一人一人がお互いを尊重する学校づくり | ○具体的推進方策の目標 ☆中部教育事務所の独自目標 | R5 県 目標 | R5 中部 目標 | R4 中部 現状 |
|--|------------------------------|------------------------|------------------------|--------------------------------------|
| ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合 ※「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」に肯定回答する児童生徒の割合 (全国学調児童生徒質問紙調査) | | 小 100 中 100 | 小 100 中 100 | 小 <i>97.3</i> 中 <i>97.9</i> |
| ○認知したいじめが解消した割合 ※解消したいじめの件数/いじめの認知件数 (令和3年度中に認知した「いじめの現在の状況」の調査) | | 100 | 100 | <i>97.1</i> |
| ○学校が楽しいと思う (学校に満足している) 児童生徒の割合 ※「学校に行くのは楽しいと思いますか」に肯定回答する児童生徒の割合 (県学調児童生徒質問紙調査) | | 小 88 中 85 | 小 88 中 88 | 小 <i>86</i> 中 <i>87</i> |
| ○スマートフォンやインターネットを使うときは、危険に巻き込まれる可能性等があることを理解している児童生徒の割合 ※「スマートフォンやインターネットを使うときは、危険に巻き込まれる可能性等があることを理解している」に肯定回答する児童生徒の割合 (県学調児童生徒質問紙調査) | | 小 100 中 100 | 小 100 中 100 | 小 98 中 99 |
| ☆不適応児童生徒の減少及び不登校出現率の減少 ※問題行動等調査 (R3 県の現状、R5 中部目標、R4 中部の現状 (R5.2 現在)) | | 小 0.84 中 3.96 | 小 0.84 中 3.96 | 小 <i>0.95</i> 中 <i>4.18</i> |

(3) 具体的な取組

ア いじめや学校不適応の未然防止、早期発見・適切な対応や心のサポートと教育相談体制の確立に向けた研修の充実を図るとともに、事務所配置を含むSC・SSW等の効果的な活用、心とからだの健康観察の活用を支援する。

イ いじめの早期発見、早期解決に向け、児童生徒の学校生活の様子に対しての感度を高め、積極的にいじめを認知し、組織的に対応する生徒指導を推奨する。

いじめ認知件数が多く報告されることは、学校の積極的な生徒指導の成果であると捉えます。

(4) 関連事業

- ・いじめ問題等総合対策研修会 (情報モラル教育研修含む)
- ・基本研修 (初、2年、5年等)
- ・こころのサポート校内研修会

- ・SC、SSWの事務所配置
- ・心とからだの健康観察

7 学びの基盤づくり

(1) 目指す姿

児童生徒が安全に学ぶことができる教育環境の整備や教職員の資質の向上が図られている。

(2) 指標 (いわて県民計画 (2019~2028) 第2期アクションプラン) ※斜体はR4年度目標を下回った箇所

| 16 児童生徒が安全に学ぶことができる教育環境の整備や教職員の資質向上 | ○具体的推進方策の目標 | R5 県 目標 | R5 中部 目標 | R4 中部 現状 |
|--|-------------|---------------|----------------|----------------|
| ○地域住民などによる見守り活動が行われている学校の割合 ※安全確保の方策をとっている学校の割合 (保健体育課調べ) | | 85.0 | 100 | 98.6 |
| ○コミュニティ・スクールを導入している学校の割合 ※コミュニティ・スクールを導入している学校/公立小・中学校 | | 75.0 | 100 | 87.5 |

(3) 具体的な取組

ア 「まなびフェスト」など学校経営計画の学校評価 (自己評価、学校関係者評価) を教職員の資質向上や授業改善に生かし、OJT で初任者や若手教員、講師等をより信頼に足る教員へと育成しながら、全教職員が教育指導やコンプライアンスを点検するよい機会とし、職業人としての倫理観・責任感の一層の確立を図り、学校が組織的に家庭や地域の信頼に応える学校づくりを推進する。

イ コミュニティ・スクールの導入に伴い、家庭や地域と連携・協働しながら、特色ある教育活動を充実させるための研修を行う。

ウ 安全指導の徹底と事故発生時の適切な対応、災害時の学校防災体制の構築と自らの命を守り抜くために必要な「主体的に行動する態度」を育成し、安全・安心な学校づくりを推進する。

(4) 関連事業

- ・ 校長研修講座
- ・ 教務主任研修会
- ・ 臨時的任用教員研修会
- ・ 地域とともにある学校づくり推進フォーラム
- ・ 副校長、主幹教諭研修会
- ・ 基本研修 (初、2年、5年研等)
- ・ 学校安全担当者研修会
- ・ 防災教育研修会